



をしました。

どこから来たの？わが町の獅子舞

弟子屈神社の例大祭になると、鑑別・仁多の獅子舞いが町をねり歩きますが、この獅子舞い、今をさかのぼって、明治三十二年に仁多に第一期開拓として入植した吉井興助氏らによって始まり、明治三十八年に神殿が建設された際に奉納され、以来、弟子屈町の伝統芸能として八十年近くにわたって受け継がれて来ました。

ところで昨年十二月に行なわれた事前調査報告書によれば、富山県内には獅子舞が千三百ヶ所も点在しており、当町の獅子舞と関連するといわれる富山県高岡市周辺でも百と百二十を数え、しかも多彩であるといわれております。その系統も氷見系、金蔵系、射水系、砺波系、新下川系と五系統に分類され、仁多の獅子舞は砺波系、鑑別獅子舞は射水系であることが判明され、この事前調査をもとに、今回の正式調査となったわけです。

教育委員会のレポートから

今回交流に訪れた東砺波郡城端町の西明地区は、砺波平野の一端に開けた水田地帯で、五十戸程の小さな部落でした。丁度秋まつりの最中で、子供獅子を先頭にカヤの中に十五人程も入る大きな獅子が登場すると、祭りは最高潮に達し、村の若連中はもう汗だくです。

その後、交流の席が公民館にうつり、同行した横山町長が「八十年ぶりに故郷に帰った気持ちです。」のあいさつに、地元からは「遠いところから親せきが訪ねて来たようです」と歓迎のあいさつがあり、なごやかに懇談をしました。この席で、となり町の井波町からかけつけてくれた岩倉さんという方が、江上さんらの話を聞き、舞い方、笛の音が井波町の東町に伝わる獅子と仁多獅子舞が大変よく似ている。是非時間があれば井波町に立ち寄ってみては、との御助言をいただいて、翌朝お訪ねし、東町に伝承されている、おはやしと舞い方を拝見したところ、仁多獅子舞関係者らは、「間違いなく同じもの」と声をふるわせていました。

その日の午後、バス・列車と乗り継ぎ、富山湾に沿った

80年ぶりの里帰り

ルーツはどこに!!

鑑別・仁多の獅子舞
ふるさとをたずねる

特集

町内の鑑別・仁多の両獅子舞は、町指定の無形文化財として保護、育成がされておりますが、この伝統芸能のルーツ探しが、去る十月二十八日から十一月二日の六日間富山県内で行なわれました。

調査は二年程前から、この調査行を計画され

た実行委員長の江上義信さんを団長に、横山町

長、袴田教育長を始め、保存会のみなさん、議

会関係者、教育関係者合わせて十七名のみなさ

んで、両獅子舞の里帰りをかねてのルーツ探し

をしました。

永見市十二町坂津地区を訪ずれ、ここは鑑別獅子舞ゆかりの地ということで、永見獅子の中でも最も格式のある獅子を拝見することが出来ました。鑑別獅子とは舞い方、おはやしに多少の違いはあるにせよ、まるで獅子が生きているように動きまわる見事な舞いを目の当りに、全員が熱い視線を送っていました。又、この獅子は、いわゆる道化役が入り、獅子に酒をふるまうなど、赤い顔を真紅にするユーモアを交えながらの道化ぶりは、一行をおおいに喜ばせました。

私達は今回八十年という時の流れを隔てて、ルーツの旅をしました。富山県の獅子舞が道内に伝承している例も多く、札幌市の丘珠獅子舞をはじめ、二十三ヶ所程知られておりますが、八十年の歳月は時の流れと共に、ルーツ富山県の数多い獅子舞にも少なからず影響を与えているように感じました。しかしながら、獅子舞の原型を今回目の当りに見たことは、わが町の先達がきびしい風雪に耐えて来た、北の開拓の歴史の中で、遠く離れた故郷富山を思い出し、作の豊穡、家の中の安全を祈願しながら舞って来た、獅子舞のもう一つの本当の顔を見たような気がします。

近い将来、弟子屈の地に本家の獅子舞が訪れることを約束して富山をあとにしました。

ルーツに学ぶ人の歴史

レポートの文中にもありますように、今回の里帰りは単に両獅子舞のルーツを訪ねただけではなく、もう一つの大きな収穫があったようです。

それは富山の人々の心こまやかな気の配りと人情だったと言います。

この地への訪問のニュースは、富山県の地元紙をはじめ各紙が取りあげ、その歓迎ぶりも城端町西明、永見市十二町坂津の両町とも「遠くから親せきが訪ねて来た」以上に手厚い歓待を受けたことだったということです。

その温かい心にくれた一人として袴田教育長は、「道内にも、もちろん弟子屈町にも、祖先を富山県内に持つ人が多くいるのですが、故郷の祖先をもう一度見直して、古い歴史のなかでつちかわれて来た人と人との関係、生活などを是非学びたいものです。」と語っていました。

現在、今回の里帰りの資料を整理中ですが、近くこの資料を



獅子舞交流
実行委員長
江上 義信さん



わが祖先
わが獅子舞
のふるさと

「北海道から故郷をよく訪ねてくれた」これが町をあげての歓待をしてくれた、富山の人々の声でした。12市町ではわざわざ我々のために昔の獅子舞を再現してくれ、80年も前に北海道へ渡った先祖へのいつくしみさえも感じさせられた交流の旅でした。

又共通の悩みとして感じられたことは、最近の世相を反映してか、やはり若い獅子のなり手がないという点にも、何かしら通じあうものがありました。わが町の伝統芸能として今後とも交流を重ねて、立派なものにして行きたいものだと感じました。

料を
纏めて、
検討会を持
つことになっ
ており、その席ではわ
が町の獅子舞の今後の
あり方なども十分に協議
される予定です。

広報では新年号で、この検討会の模様を新春特集としてみなさんにお知らせする予定であります。

獅子舞交流団々員名（順不同・敬称略）

仁多獅子舞保存会、団長江上義信、江上清一郎、広本兵作、吉井政春、堀田昌夫、太田秋夫（芽室在住個人参加）、鑑別獅子舞保存会、佐藤信一。弟子屈町長、横山徳住、町議会副議長江幡義夫、町文教厚生常任委員長桐木富治、教育委員長滝昌之、教育長袴田毅、教育委員、富本博、田口稔、万代重則、教育委員会事務局職員二名。